

焼岳の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

<噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続>

昨日（26日）実施した上空からの観測では、山頂付近の噴気の状況に特段の変化は認められませんでした。

焼岳では、山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しています。また、傾斜変動観測では、山頂方向上がりの変動がみられています。

防災上の警戒事項等：

想定火口域から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～4）

昨日（26日）岐阜県の協力により実施した上空からの観測では、北峰南側噴気孔や隠居穴噴気孔等で引き続き噴気が認められましたが、前回（2025年3月）の観測と比較して、噴気の状況に特段の変化は認められませんでした。また、山頂付近では新たな噴気や噴出物の痕跡は認められませんでした。

監視カメラによる観測では、噴気活動に特段の変化はありません。

・地震の発生状況（図5、図7）

25日02時頃から山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しています。火山性地震の日回数は、25日75回、26日38回、27日08時までに14回（速報値）です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図6～8）

傾斜変動観測では、25日01時頃から、また本日（27日）02時頃から、それぞれ山体浅部の膨張を示唆する山頂方向上がりの変動がみられています。

GNSS連続観測では、一部の基線で山頂付近の緩やかな膨張を示すと考えられる変化が継続しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokujii.html>

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』『電子地形図（タイル）』を使用しています。



2026年1月26日



2025年3月14日

図1-1 焼岳 山頂付近の噴気の状況

- 昨日（26日）岐阜県の協力により実施した上空からの観測では、前回（2025年3月14日）の観測に引き続き、北峰南噴気孔及び隠居穴噴気孔で噴気が認められましたが、噴気や噴気孔周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。



図1－2 焼岳 黒谷火口周辺の状況

- ・黒谷火口では噴気は認められませんでした。前回（2025年3月14日）の観測と比較して、黒谷火口周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。



図1-3 焼岳 北側及び西側斜面の状況（1月26日）

- ・山頂付近では新たな噴気や噴出物の痕跡は認められませんでした。



図1-4 焼岳 南側及び東側斜面の状況（1月26日）

- ・山頂付近では新たな噴気や噴出物の痕跡は認められませんでした。



図2 烧岳 山頂部及び南西斜面の状況

（左上図：焼岳北監視カメラ、下左図：焼岳南西斜面監視カメラ、右上図：焼岳東監視カメラ）

- ・噴気活動に特段の変化はありません。

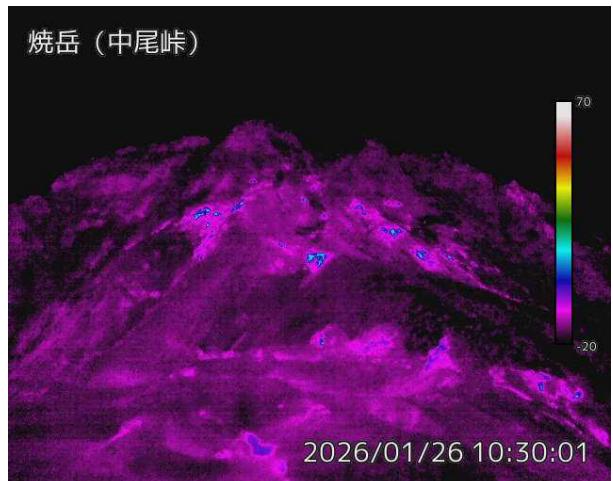


図3 烧岳 中尾峠赤外熱映像カメラによる焼岳の北側斜面の地表面温度分布と可視画像

- ・噴気の状態や地表面温度分布に特段の変化はありません。

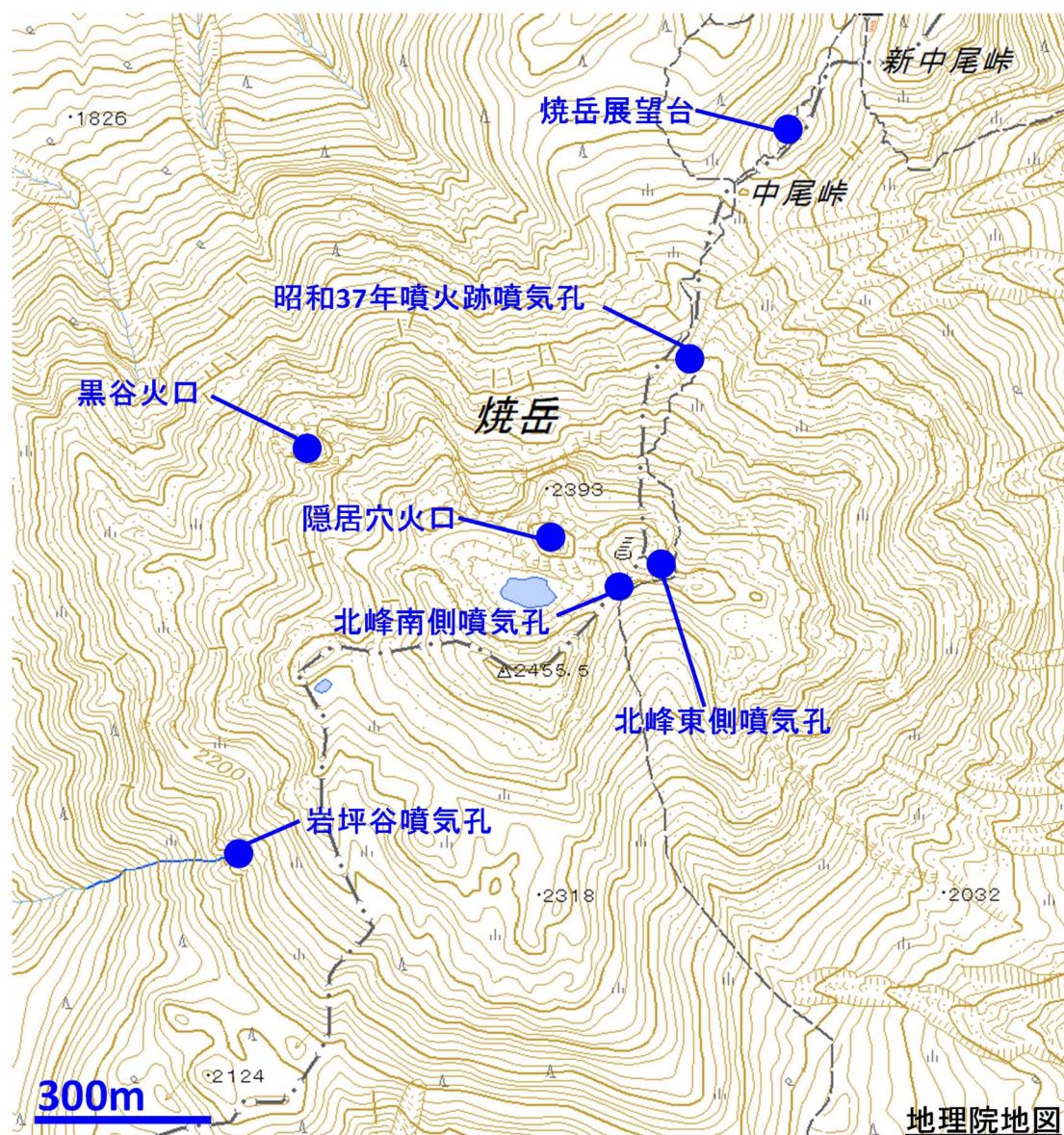
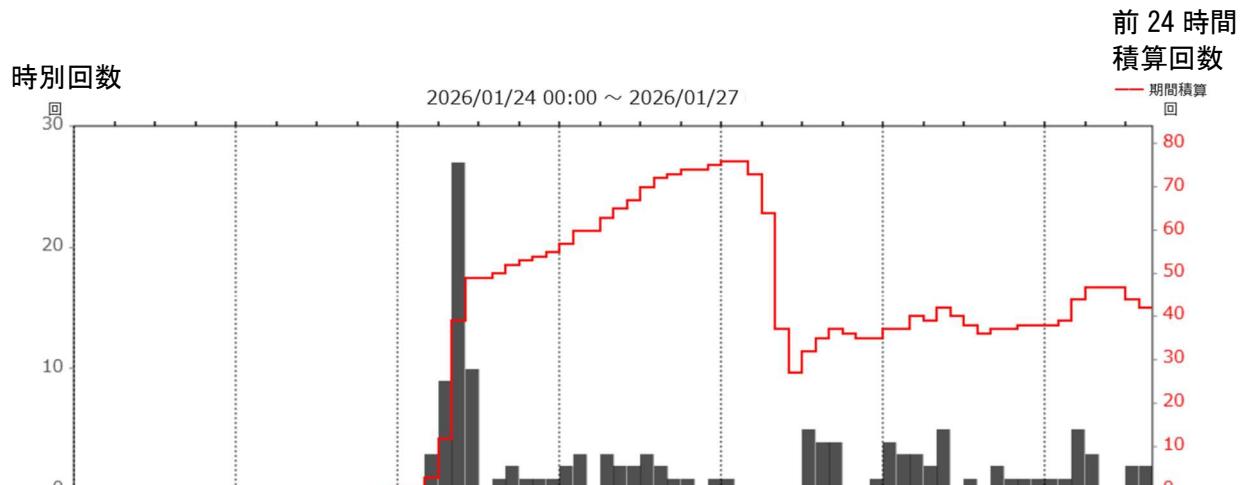
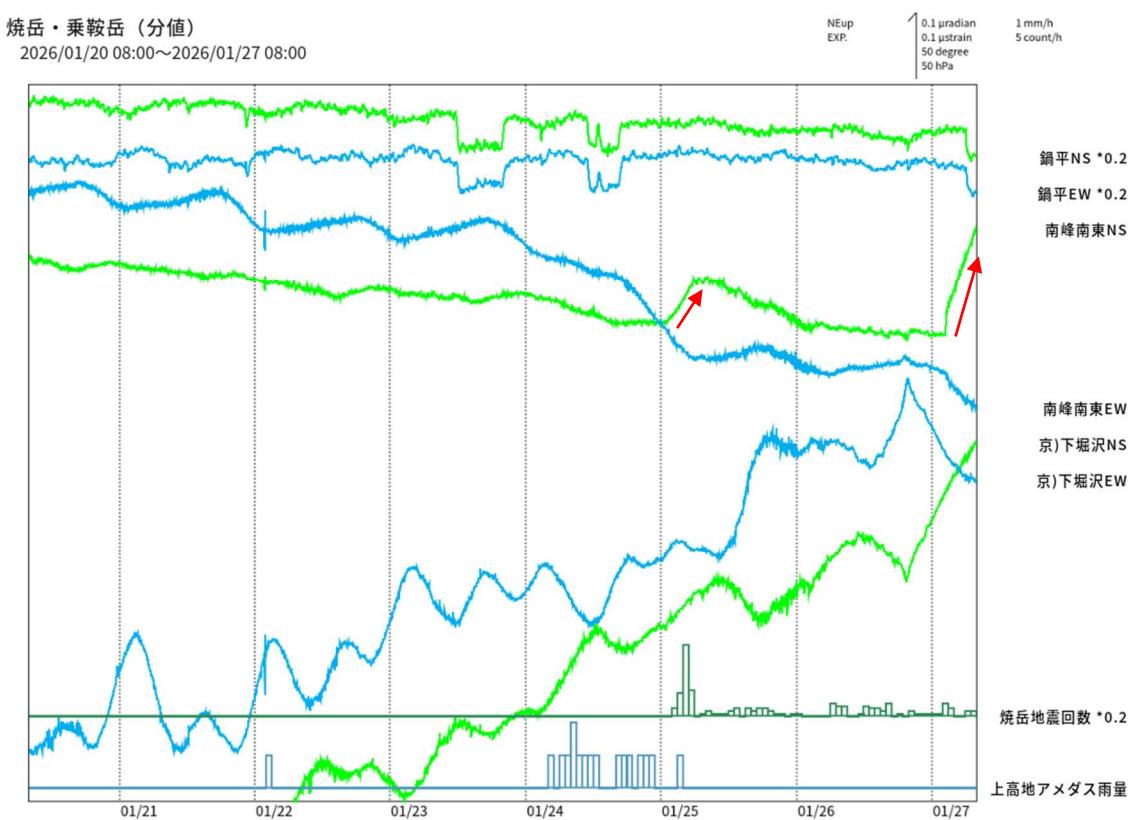


図4 燃岳 主な噴気孔・地熱域位置図



- ・25日02時頃から山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しています。火山性地震の日回数は、25日75回、26日38回、27日08時までに14回（速報値）です。
- ・火山性微動は観測されていません。



分値データを使用しています。（京）：京都大学

- ・傾斜変動観測では、25日01時頃から、また本日（27日）02時頃から、それぞれ山体浅部の膨張を示唆する山頂方向上がりの変動がみられています（赤矢印）。

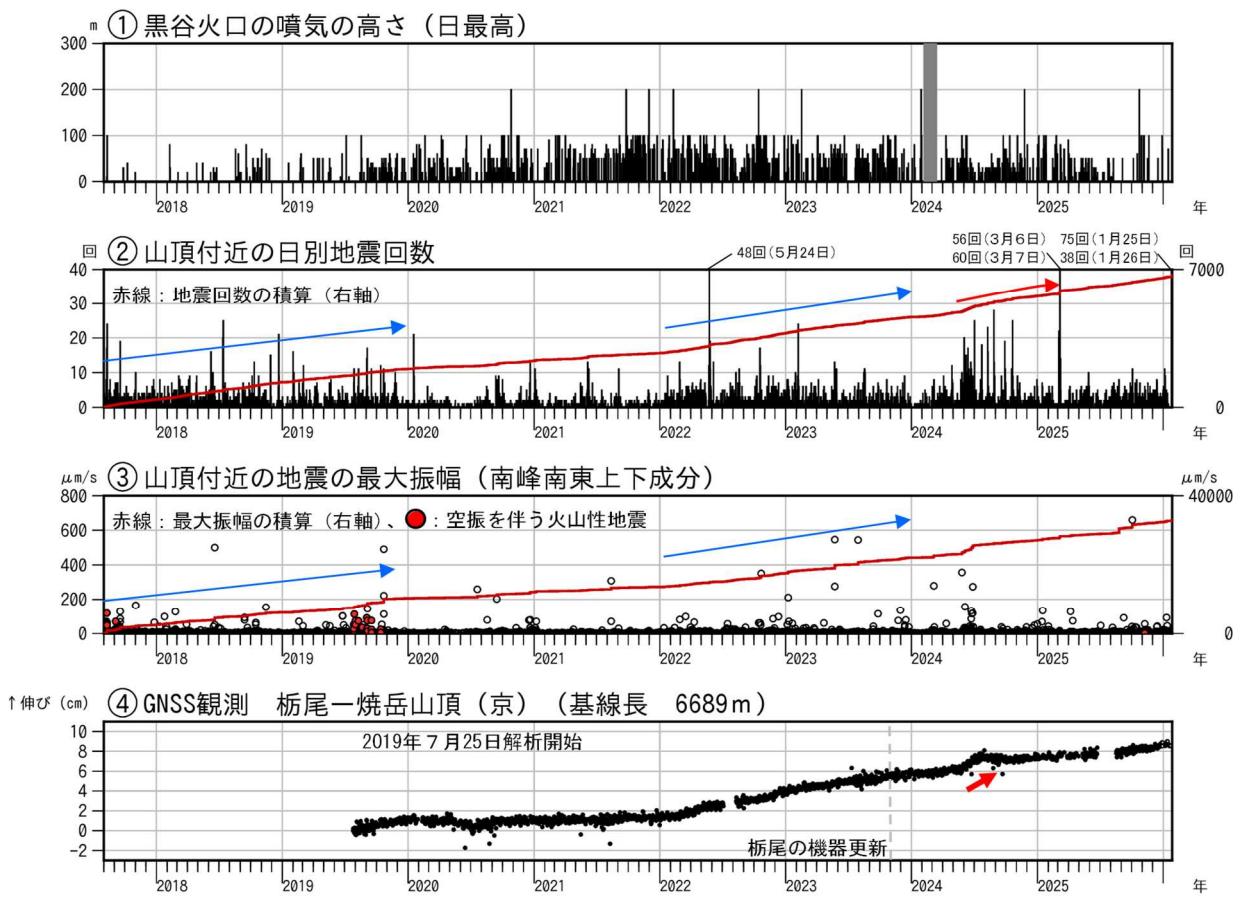


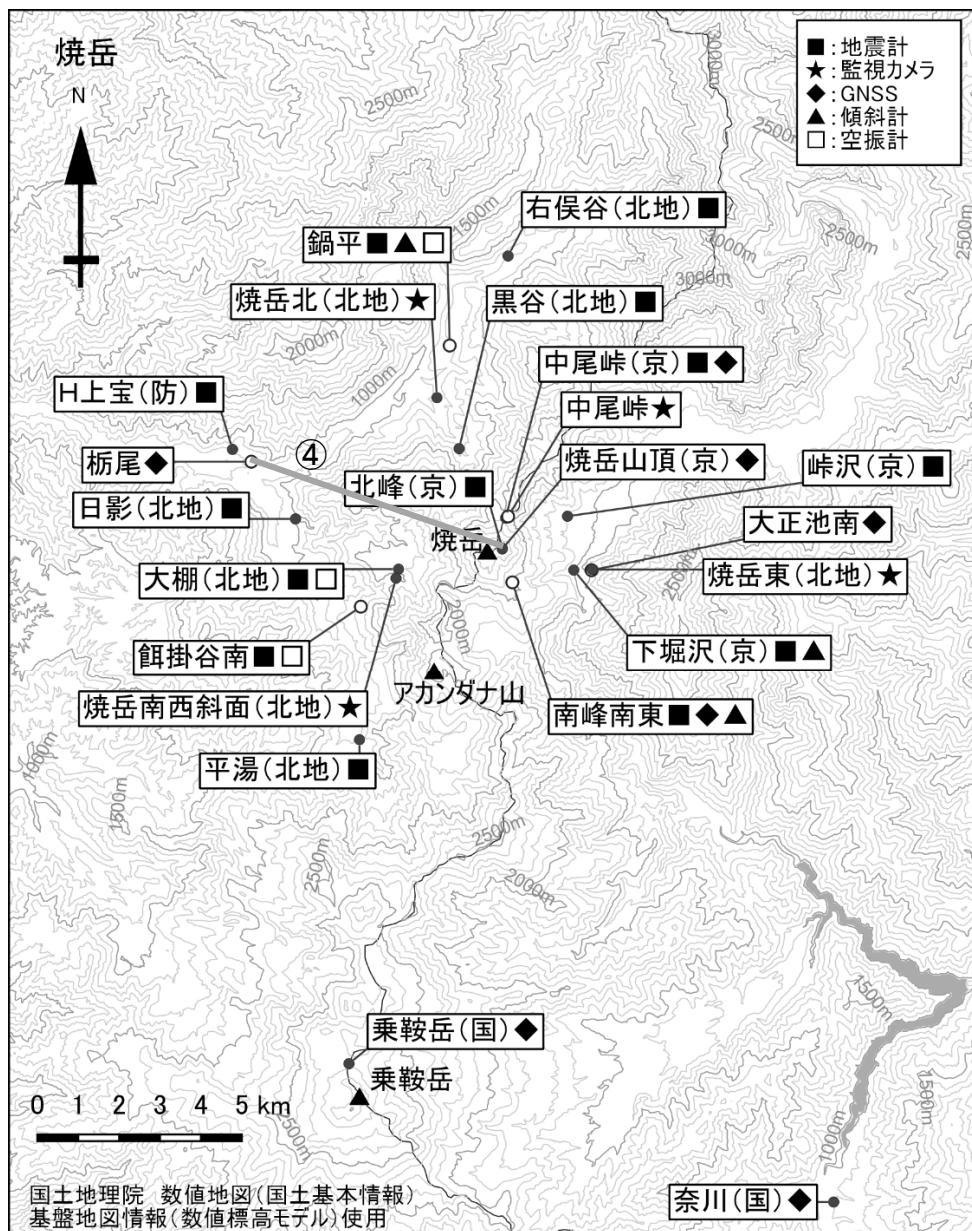
図7 焼岳 火山活動経過図（2017年8月1日～2026年1月26日）

④は図8のGNSS基線に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。（国）は国土地理院、（京）は京都大学の観測点

山頂付近の地震とは、南峰南東観測点の上下動振幅 $1.0 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間1.0秒以内で、焼岳山頂付近の概ね海拔0km以浅が震源と推定される地震のことです。

①灰色の期間（2024年2月5日～3月14日）は欠測を示します。

- ・黒谷火口では、2019年夏頃から噴気を観測する日が増えています。
- ・山頂付近の微小な地震（焼岳山頂付近の概ね海拔0km以浅が震源と推定される地震）が継続しています（②）。
- ・2022年1月頃から2023年末まで、山頂付近の地震回数に増加傾向がみられましたが、2017年8月から2019年末の期間にみられた地震活動（積算曲線の勾配）とほぼ同程度です（②③青矢印）。2024年5月下旬から2025年3月上旬にかけて、時々短期的な増加がみられました（②赤矢印）。
- ・山頂付近の緩やかな膨張を示すと考えられる伸びの変化が継続しています（④）。2024年5月下旬からの地震回数の増加に対応してその変化率が増加しました（赤矢印）。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国):国土地理院、(防):防災科学技術研究所、(北地):北陸地方整備局、(京):京都大学

図8 焼岳 観測点配置図

○は気象庁、●は気象庁以外の機関の観測点を示しています。④は図7のGNSS基線④に対応。
(国):国土地理院、(防):防災科学技術研究所、(京):京都大学、(北地):北陸地方整備局